









## 『原爆写真 ノーモア ヒロシマ・ナガサキ』

## 黒古教授 工夫こらして新編集



本学の黒古一夫教授(図書館情報)が責任編集した「原爆写真・ノーモアヒロシマ・ナガサキ」(日本書センター・1890円)は3月に出版して以来、好評で6月に早くも重版した。同書は日本図書センターの30周年記念出版として企画され、長年、日本の原爆文学に関わってきた

井上ひさしなどそれに相応しい作家のエッセイや詩を選んで添えている。読者を選び

日本語の文章、詩には米国人の日本文学研究者による自然な英訳が添えられている。世界中の人に読んでもらいたいという編集者と

## 英訳も載せ、世界に発信

今年は原爆投下から60年。黒古教授はヒロシマ・ナガサキの記憶が風化しつつある現在の状況を憂えて「えられ」という。

同教授は7月には八朔社ともすればおれらがちの

## コミュニケーションF M局

## 地域密着型の情報発信

## 来年4月をめどに開局

から「戦争を文学はどう描いたか」「原爆を文学はどう描いたか」(仮題)の2冊を刊行する。戦後60年、ついにある現在の状況を危惧す

る。86年に起きたチエルノ



には、写真や絵画など映像情報と文字による活字情報により、考え方を読む、読みながら考えることができます。

本学の社会貢献プロジェクトの一つである本学のコミュニケーションF M局が、来年4月につくば市情報ネットワークセンター内で開局する。

チャンネルは周波数84・2メガヘルツに決定した。地域に密着した情報発信基地を本学を作ろうと足立和隆、助教授(人間総合)が立案したもので、昨年7月から準備が進められてきた。学生時代の緊急連絡手段としても期待がかかる。馬場隆さん(比文3年)を中心と

つくばエクスプレス(TX)「春のStyle Tsukuba」が5月22日、閉幕した。

Dなど4会場で開催され

た。スタンプラリーも同時期につくばフェスティバルが開催されたことが幸いだことをいたく喜び、言語を研究する前に見聞を広めてこと、進学して

## 約4000人が来場

## 「共催の輪広げたい」

「芸術の風つくばかる」の開通を記念して行われた

「春のStyle Tsukuba」が5月22日、閉幕した。

Dなど4会場で開催され

た。スタンプラリーも同时

期につくばフェスティバルが開催されたことが幸いだことをいたく喜び、言語の数は増え、いたたまに訪ねてくる者が博士論文の第四章は奇しくも祖父が専攻した言語の数は増えていった。祖父と過ごした少年時代が、やはり私の原点であるのかも知れない。



生源寺眞一著「農政の未来を考える」

## 新しい米政策と農業・農村ビジョン

生源寺眞一著

1998年)は、著者自身が食料・農業・農政に深く関与しながら、農省政策ブレーンでもある。本書および同種の2作『農政大改革』(2002年、「アンチ急進派の農政改革論」)は、著者自身が静学の章を設け、政策変更には常に現場の痛みが伴うことを、比較静学と法学の方法論を対照させて指摘する。現場にも痛みがあるが、著者自身

書の「はしがき」で述べるよう、複眼思考と時代感覚をもって現実の経済や社会の動きを見るとが重要である。本書はまさに時代感覚を身につける指南書として、大変有用である。広く学生さんや関係者にお勧めする。(家の光協会、1575円)(生命環境・助教授)

国家再建について、ルワンダの歴史なども踏まえて語った。会場には約80人の学生・教員が訪れ、ほぼ満員となつた。大使は「たくさん的人が関心を持ってくれてうれしい」と話した。

拓夫講師(人文社会系)は「多くの人がアフリカに関心を持つきっかけになれば」と語っていた。同プロジェクトでは6月21日にも第3回のセミナーを開催する。

講演は英語で行われた。拓夫講師(人文社会系)は「多くの人がアフリカに関心を持つきかになれば」と語っていた。同プロジェクトでは6月21日にも第3回のセミナーを開催する。

## 祖父に学んだ言葉の知識



鷲尾 龍一

言葉を比較し本質に迫る

この発見の意味するところを一般的言語理論の文脈において論じた研究である。同じ専門誌に掲載された別の論文では、モンゴル語、韓国語、フランス語などを日本語と比較し、日本語に内在する普遍性と個

言葉の人物評価も悲惨であり、厳格な裁判官だった。祖父の跡を續くべくも、確かに個別言語の研究者も多いが、私が携わっているのは、諸言語を比較する事により、言葉を比較して、あらゆる言葉を比較する事により言語の普

通して再確認してもう一度、あらためて膨大な数の原爆写真や絵画に目を通しテーマを設定した。テーマを選んで添えてある。読者マニアに従って写真を配置し、心地よいからだ。編集者

は、写真や絵画など映像情報と文字による活字情報に混ざりながら考えることができるものであることが判明した。すでに関東総合通信局に同周波数の使用を申請し、優先権を認められた。足立助教授は「来年4月の開局を目指し、具体的な開局目標を定めた。すでに関東総合通信局との話し合いが進んでおり、開局に必要となる第2級陸上無線技術士の資格を有する専従スタッフも募集中だ。

したがい、予定した開局場所にアンテナを設置するが、一部の地域で電波障害を起こすことが5月にわかり、つくば市役所と旧つくば市役所と旧つくば市役所を切り替えて、第一小学校に変更して、チャンネルの有無は、空きチャンネルの有無は、昨

年12月半ば、つくば市内の受信電波の調査を業者に依頼し、使われていないチャネルは84・2メガヘルツのみであることが判明した。そこで、開局に必要な受信電波の調査を業者に依頼し、使われていないチャネルは84・2メガヘルツのみであることが判明した。すでに関東総合通信局に同周波数の使用を申請し、優先権を認められた。

足立助教授は「来年4月の開局を目指し、具体的な開局目標を定めた。すでに関東総合通信局との話し合いが進んでおり、開局に必要となる第2級陸上無線技術士の資格を有する専従スタッフも募集中だ。

したがい、予定した開局場所にアンテナを設置するが、一部の地域で電波障害を起こすことが5月にわかり、つくば市役所と旧つくば市役所と旧つくば市役所を切り替えて、第一小学校に変更して、チャンネルの有無は、空きチャンネルの有無は、昨

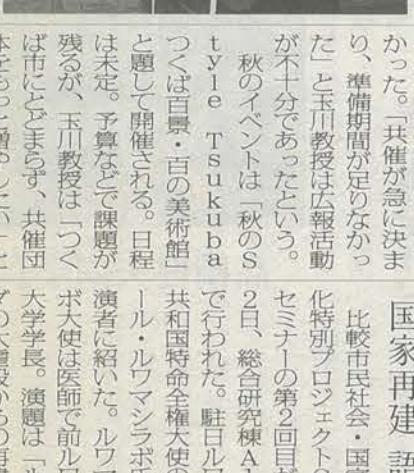
年12月半ば、つくば市内の受信電波の調査を業者に依頼し、使われていないチャネルは84・2メガヘルツのみであることが判明した。すでに関東総合通信局に同周波数の使用を申請し、優先権を認められた。

足立助教授は「来年4月の開局を目指し、具体的な開局目標を定めた。すでに関東総合通信局との話し合いが進んでおり、開局に必要となる第2級陸上無線技術士の資格を有する専従スタッフも募集中だ。

したがい、予定した開局場所にアンテナを設置するが、一部の地域で電波障害を起こすことが5月にわかり、つくば市役所と旧つくば市役所と旧つくば市役所を切り替えて、第一小学校に変更して、チャンネルの有無は、空きチャンネルの有無は、昨



の間に、学生も人物評価も悲惨であり、厳格な裁判官だった。祖父の跡を續くべくも、確かに個別言語の研究者なかつたが、不思議なことに、たまたま訪ねてくる母方の祖父の話は「一日中、中国に帰っていた。唐詩などにも造詣が深く、詩などを多く書いた」。中国に帰っていた。唐詩などを多く書いた。



の間に、学生も人物評価も悲惨であり、厳格な裁判官だった。祖父の跡を續くべくも、確かに個別言語の研究者なかつたが、不思議なことに、たまたま訪ねてくる母方の祖父の話は「一日中、中国に帰っていた。唐詩などを多く書いた」。中国に帰っていた。唐詩などを多く書いた。

の間に、学生も人物評価も悲惨であり、厳格な裁判官だった。祖父の跡を續くべくも、確かに個別言語の研究者なかつたが、不思議なことに、たまたま訪ねてくる母方の祖父の話は「一日中、中国に帰っていた。唐詩などを多く書いた」。中国に帰っていた。唐詩などを多く書いた。













